

児童養護施設の仕事は、長い年月をかけて、子どもの人生に寄り添う仕事です。長い子どもになると十数年をかけて付き合います。人生の中での良い時も、悲しい時も、嬉しい時も、寂しい時も、子どもと共有し、一緒に泣いたり笑ったり、時には衝突したりして、大人も子どもと共に育ち合っていきます。その意味では「子どもの人生という物語の登場人物」にも成り得る、素敵な仕事です。すぐに答えが出ない事や、子どもの傷つきを前にして、無力感にかられる事もありますが、それを子どもと共に乗り越えた時の喜びはひとしおのものがあります。

「保育」の仕事も「養育」の仕事も、子どもと遊んだり、お世話をしたりと、日々の労働の場面としては、「ミクロ」なことに感じるかもしれません。しかし、「人の集まりが社会となり、社会の集まり国となる」ならば、その構成要因となる「人」を育てる⇒「子どもを育てる」ということは、国や世界を作っていく、とても「マクロ」な仕事とも言えるものです。児童養護施設は、そんな大切な、誇りある事業だと考えております。